

企業における健康経営の取り組み ——女性の健康支援の取り組みに着目して

椽尾 麻未

(中央大学大学院博士課程)

本論文では、経済産業省の健康経営度調査の時系列分析、健康経営銘柄2023の企業情報を元に、女性の健康保持・増進に対し、企業がどのような取り組みを行っているかを明らかにした。その結果、「女性特有の健康関連課題に関する知識を得るための取組」については、回答企業の7割以上が何らかの対象にセミナー等での教育を実施しており、対象別の経年変化を見ると、2019年度調査では女性限定で実施している企業が最も多かったが、2020年度以降は対象を限定せずに実施している企業が多いこと、また企業における女性の健康増進への関心の高まりを背景に管理職限定で実施する企業が徐々に増加していることがわかった。一方、「女性特有の健康関連課題に関する行動を促すための取組」としては、調査開始以降、取り組みの中心は婦人科健診・検診の受診促進・費用補助等であり、近年仕事上のパフォーマンスやキャリア選択に

マイナスの影響があると指摘されている更年期症状・障害や月経随伴症状に関して取り組む企業は未だ少ないことがわかった。また、健康経営の認定のレベルごとに取り組みに大きな差があることもわかり、健康経営の取り組みが成熟した後に、女性に特化した取り組みを始める企業が多いことが示唆された。健康経営度調査に含まれる項目は、認定を受けることを希望する企業にとっては、女性の健康増進に関する取り組みを促す効果があると考えられるが、実際に企業がどのような情報を活用しているか、健康経営度調査からは見えない企業独自の取り組みや職場の変化などを検討していきたい。

とちお・あさみ 中央大学大学院戦略経営研究科博士課程在学。最近の主な論文に「月経周期の仕事上のパフォーマンス低下を抑制する要因」『大学院研究年報 戦略経営研科編』第9号, pp. 1-20 (2022年)。人的資源管理論専攻。